



▲宣伝用フライヤーB「未来へ」

人々を愛するが故に、権力の攻撃に凜として  
 対決する姿が、美しく鮮やかに  
 大型スクリーンに躍動

宮地 さか枝

映画「わが青春つきるとも——伊藤千代子の生涯」の、完成披露有料試写会が4月2日（土）、都内「銀座ブロッサムホール」で開催され、私も多くのみなさんと鑑賞しました。

新人俳優井上百合子が演ずる伊藤千代子が、治安維持法で逮捕され拷問されても、人々を愛するが故に、権力の攻撃に凜として、対決する姿が、美しく鮮やかに大型スクリーンに躍動していました。千代子は、あくまでも良心に従い、特高警察の転向の誘いに負けませんでした。そして、松澤病院にて、肺炎にかかり24

歳で非業の死を遂げます。正に獄死です。

アルプスの山並みを背景にした千代子のお墓の前で、従妹のふみさんが、千代子姉さんに、新しい憲法ができ、夢が叶えたことを報告するシーンに思わず涙が流れました。今を生きる私たちに、平和でジェンダー平等、言論の自由な社会を発展させるバトンを渡されたのだと強く感じました。

さて、映画、「わが青春つきるとも」が、なぜ多くの観客を魅了してやまないのでしょうか。その点について、考えてみたいと思います。

桂壮三郎監督が、伊藤千代子の生涯の映画化制作の計画と製作費の募金活動の協力をお願いに私たちの前に現れたのは、4年前の2019年夏ごろでした。それも一口10万円に上映債権がつくというものでした。

新日本歌人協会に見えられ熱く訴えられました。年金者組合東京都本部にも来られ、訴えを聞いた方が「良い映画を広めるために、是非協力したいね」とすぐ反応されました。

また「制作を支援する全国の会」事務局がつくられ、原作者の藤田廣登さんが動き、活動の中心に治安維持

法犠牲者国家賠償要求同盟が座りました。

しかし全く思わぬ事態が起きました。2020年初頭にコロナ禍の出現です。製作運動は困難にぶつかりました。この逆風の中で、藤田さんは、高齢などものともせず、青年のように、著書『時代の証言者 伊藤千代子』を携え、分かり易い資料も作って全国に学習と募金活動を草の根から展開しました。全国北は北海道・苫小牧市から中部は千代子出身の長野県、そして南は沖縄県那覇市までたくさんの実行委員会が作られ運動が広まり、それをニュースで知らせ、みんなが共有するように藤田さんは気配りました。ようやく昨年2021年の初め頃から、俳優陣もぼちぼち決まり、主演俳優の井上百合子さんは、5月12日に、全労連会館において歓迎報告会に出席されています。

桂監督、シナリオライターの宮負秀夫さんたちが、コロナの中でも感染者を出さずに、何としても良い映画を成功させたいと決意固く、撮影場所の選定、エキストラの募集を8月から始め、これには各地の実行委員会が力を発揮しました。

桂監督、藤田さんたちは、若き俳優さんたちに学習

会を持ち、時代背景を知ることでも迫真の演技ができるように考えたようです。主演の井上百合子さんは、21年の7月17日〜18日、桂監督、各地からの50人のみなさんとツアーに参加し諏訪に眠る千代子の墓参、長野県各地のロケ地訪問を行っています。そして井上さんは、「精一杯演じたい」と決意を述べています。

以後、物語の撮影、編集と続き、今年3月末によく映画は完成しました。今、ワタナベ・コウさんが漫画『伊藤千代子の青春』を発行され、孫にプレゼントすると買い求める人もおり、映画の普及に相乗効果を発揮しています。

こうして独立プロの映画づくりの流れを見る時、映画は正に作り手と支える側との総合的で壮大な芸術作品であると言えるのではないかと思います。

東京女子大の安井てつ学長を演じた竹下景子さんが、4月10日付けの「しんぶん赤旗」に登場し、「海外の大学に学び千代子さんの検拳に対しても『思想は自由』と言ってはばからない人格者でした。自由にモノが言える先に本当の平和がある。そのことをみんなが考えることが大切です」このコメントに心からうなづきま

した。

今後、上映活動を成功させることで、映画関係者のみなさんに恩返しをしていきたいと思っています。

(みやち さかえ・映画製作を支援する会会員)



天平ノ首飾り 榊莫山・絵